

地元力財団

あなたの「ほっとけない」が見つかる
これからの社会貢献 100

何が課題？数字でみる和歌山県

【休眠口座とは】
お亡くなりになったあと、活用する方が見つからずに眠ったままになってしまふ資産は、なにも住宅だけではなく、預貯金もそのひとつです。一般の銀行では10年、ゆうちょ銀行では5年以上取引がなく、預貯金者本人と連絡がつかないものを「休眠口座」といいます。毎年800億円を超す額が休眠口座として生まれているといわれており、既存の様々な枠組みでは支援が行き届かない、社会的弱者といわれる方の救済などに活かさないか、検討が始まっています。

【休眠口座とは】
お亡くなりになったあと、活用する方が見つからずに眠ったままになってしまふ資産は、なにも住宅だけではなく、預貯金もそのひとつです。一般の銀行では10年、ゆうちょ銀行では5年以上取引がなく、預貯金者本人と連絡がつかないものを「休眠口座」といいます。毎年800億円を超す額が休眠口座として生まれているといわれており、既存の様々な枠組みでは支援が行き届かない、社会的弱者といわれる方の救済などに活かさないか、検討が始まっています。

地元をよくするために、私たちは何をすべきなのでしょう。地元をよくするために何かしたいけど何をすれば良いのか分からないというあなたに向けて、あなたの地元、ここ和歌山の地域課題をデータを用いて見える化していきます。毎回異なるテーマ（分野）を取り上げ、地元の課題を端的に表すデータをご紹介します。

Theme4 遺産・遺贈

【8軒に1軒が「空き家」？】
先日、「平成25年住宅・土地統計調査」の結果が公表され、全国の空き家率が過去最高の13.5%となったことが、ニュースで大きく取りあげられました。実に住宅の8軒に1軒が空き家という計算です。

和歌山も例外ではなく空き家が増加しています。空き家が増加する主たる原因は、単身で暮らす高齢者の数が多いことだと考えられます。そこで暮らす方がお亡くなりになったとき、次に活用する方がなかなか見つからずに空き家となってしまうのです。

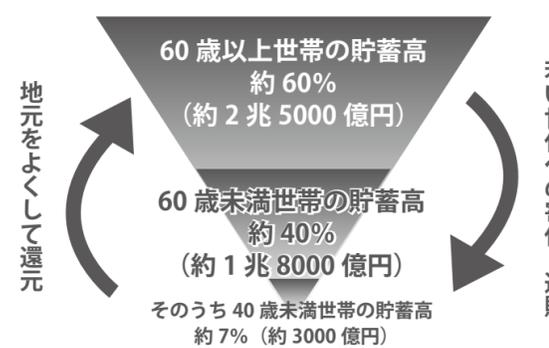
【和歌山県民はお金を貯めている？】
和歌山県民の貯蓄高を世代別に見ると、世帯主が60～75歳の世帯では平均2118万円の貯蓄高があります。また75歳以上の世帯の貯蓄高は1829万円となっています。

一方で、世帯主が20代の世帯の貯蓄高は平均158万円、30代の世帯では618万円と低く、高齢者世帯と比較すると3～10倍以上の格差があります。総額で見れば和歌山県民の貯蓄高は約4兆3000億円にのぼりますが、そのうち20～30代の世帯の貯蓄高は約3000億円、全体の約7%しかありません。また、40～50代の世帯の貯蓄高は1兆5000億円、全体の約34%。一方で60歳以上の高齢者世帯の貯蓄高が約2兆5000億円、全体の約60%を占めています。

このように貯蓄高は世代間で大きな格差があります。高齢者世帯がこれまで貯えてきた資産は、その方がお亡くなりになったときにどうなるのでしょうか。まずは親族に相続されるのが考えられます。たいていはこのケースになるでしょう。しかし、最近「休眠口座」が注目されていることから分かるように、ある程度の割合で

相続されずに休眠口座となってしまう資産もあるのが現状です。【資産の新たな活用法】
これまで一生懸命働いて貯えてきた資産の活用方法を自ら決めず、眠らせてしまおうではなく、活用方法を一度考えてみる必要があるかもしれません。生前からの寄付や遺贈も活用方法の一つです。近年、社会貢献意識が高まりを受け、遺産を地域のために活かしてほしいという声やニーズは全国的に高まっています。寄付や遺贈をすることで、活発に地元のために働ける若者がより社会的インパクトの強い活動をし、地元をよくすることができると期待されています。これによる恩恵は高齢の方にも届きます。このように、これまで貯えてきた資産を眠らせてしまおうのではな

和歌山県における貯蓄高の世代間格差
～遺贈を通じて世代間の資金循環を加速させる～



TOPICS

地元力財団では「地元に対する想いを寄付に託す」という新しい寄付の「カタチ」を提案しています。寄付はもちろん、明日からできる「あなたらしい」社会貢献のカタチを紙面で紹介しています。

当財団では「社会貢献支援相談窓口」を開設し、個人や団体、企業のみならずの地元に対する想いをカタチにしていくお手伝いをしたいと考えています。

また、昨今の社会貢献意識の高まりを受け、遺産を地元のために活かしてほしいという声やニーズはますます高まってきています。地元の課題が多種多様になるなか、それらの声に応える新しい仕組みが求められています。

公益財団法人わかやま地元力応援基金では、「遺産を地元のために提供したい、寄付したい、活用してほしい」という想いと、大切な遺産を地元の市民公益活動団体へとつなぎ、活用していくための相談を受け付けています。

■お問い合わせ先
公益財団法人わかやま地元力応援基金
「これからの社会貢献100」係 (担当: 酒井)
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-428-0011 FAX 073-428-0012
E-mail info@jimotofund.jp

和歌山県における、世帯主の年齢階級別の貯蓄高合計

Table with 6 columns: 世代 (25~29, 30~34, 35~39, 40~44, 45~49, 50~54, 55~59, 60~64, 65~69, 70~74, 75歳以上), 貯蓄高 (2,802,920, 141,519,141, 179,056,696, 201,644,355, 283,003,176, 456,697,073, 566,096,400, 878,780,424, 736,350,150, 442,753,577, 500,487,696)

(平成21年全国消費実態調査より、単位千円)

若い世代への寄付・遺贈

地元をよくして還元

く、活用方法を考えることも、社会貢献のひとつだといえます。

【今回のまとめ】

- 空き家や休眠口座など、個人資産が有効に活用されていない実態が浮き彫りになってきている。
● 和歌山県においては60歳以上の世帯が、県民全貯蓄の約60%を保有している。一方、20～30代の貯蓄高は全体の1割にも満たず、貯蓄額の世代間格差が大きい。
● 資産を有効に使う方法の一つとして、生前に寄付したり遺贈したりといったニーズが増加している。資産を若い世代に託すことで、地域社会の発展に寄与することも期待できる。

遺産遺贈のQ&A

一口に「遺産」「遺贈」といっても、その手続きや活用法など、事前に知っておくべきことがたくさんあります。よくあるご質問をいくつかご紹介いたします。

Q. 遺産を遺贈するにはどうすればいいの？
A. 遺贈のためには「遺言書」の作成が必要ですが、遺言書がない場合、残された資産は、法定相続人が定められた割合、または遺産分割の話し合いによって決まった割合で相続することとなります。また、法定相続人がいない場合には、国庫に入ります。遺贈をご検討の方は地元力応援基金にご相談ください。

Q. たとえば地元力財団に遺産を遺贈するとうなるの？
A. 市民のみならずの善意あるご寄付を地元に効果的につなぐという当財団の専門性、機能やサービスを活かし、また適切に専門家などと連携をして、地元をよくするために力を発揮している市民公益活動へ遺産をつなぐコーディネートをし

みんなでつくる情報板 わかやまイベントボード

- 「きいちゃん」と一緒に写真を撮ろう！
●満月にヨガ体験しませんか
●ラジオ体操・紀州っかがやきエクササイズダンス
●紙芝居&和歌山城ウォーク

このほかの情報もたくさん掲載！「わかやまイベントボード」URL
PC版 http://eventboard.shiminjuku.jp/
携帯電話版 http://eventboard.shiminjuku.jp/m/